

「Team Noah GR Supra GT4」 富士 24 時間で 5 位ゴール



ENEOS スーパー耐久シリーズ 2023 に参戦する「Team Noah GR Supra GT4」は、5 月 26～28 日に富士スピードウェイ(静岡県)で開催されたシリーズ第 2 戦「NAPAC 富士 SUPER TEC 24 時間レース」の ST-Z クラスに参戦。今回から GR Supra には EVO モデルのコンバージョンキットを組み込み、激戦区の ST-Z クラス 10 台中 5 位で完走。シリーズ中盤から後半で戦うためのデータの多くを収集した。

福岡に本拠を置く Team Noah(代表:清瀧雄二)は、“九州に元気を！九州のモータースポーツにもっとワクワクを！”を合言葉に九州のレーシングチームとして 2018 年より S 耐に参戦を開始。2021～22 年はホンダ・シビック TCR で、ST-TCR クラスチャンピオンを獲得した。また富士 24 時間レースでは 2018 年と 2022 年の 2 回、ST-TCR クラスの優勝を飾っている。今季はマシンを GT4 規定の GR Supra GT4 へ替え、クラスも毎戦 10 台以上がエントリーする激戦区の ST-Z クラスへステップアップ。このレースから改良モデルと同じコンバージョンキットを組み込んだ GR Supra GT4 EVO となり、塚田利郎、蘇武喜和、金丸ユウ、大島和也、小串康博、芳賀邦行の 6 名で 24 時間レースに臨むことになった。またワンメイクタイヤだったハンコックタイヤの工場火災により、ドライタイヤはブリヂストンを履くことになった。

今回富士 24 時間レースにエントリーした車両は、8 クラス 52 台。ST-Z クラスは、GR スーブラ、新型 Z、ポルシェ・ケイマン、メルセデス、アウディ R8 と国内外の GT4 マシン 5 車種計 10 台だった。26 日は晴れ/ドライのコンディション。公式予選は A、B ドライバー 2 名のベストタイム合算で争い、塚田と蘇武のタイム合算の結果、総合 17 位、クラス 9 位となった。

3 日間の入場者数は 4 万 7000 人、コースサイドには数多くのテントが並びバーベキューを楽しむファンが増えた。そして 27 日の 14 時 59 分に日本一長い耐久レースが始まった。スタートを担当したのは金丸だったが、スタート違反でドライブスルーのペナルティを受け順位を上げることができず、大島、塚田とつなぎ日が落ちると恒例の花火が打ち上がった。花火の最中に ST-Z クラスの 1 台が激しくクラッシュし、このレース初のセーフティカー(SC)が導入となった。夜間走行になると、蘇武、金丸が 2 ステントを連続して担当するが、ピット作業中の作業違反で 60 秒ストップのペナルティを受け、なかなか思うように順位が上がらない。しかし耐久レースは大きなトラブルなく最後まで走ることが肝要だ。その後は塚田、大島とつなぎ、義務付けられたリペアタイムを利用してプレーキ系を交換した。

夜が明けようとしていた 3 時半過ぎに 1 台の車両が接触を受けて激しくクラッシュ。これで SC 導入から赤旗が振られて中断。レースは 5 時までストップすることになった。この時点で Team Noah GR Supra GT4 はクラス 6 位まで順位を上げていた。すっかり明るくなりレースはリスタート。夜が明けてからは金丸、芳賀がドライブを担当。その後も蘇武、金丸、大島とつなぎ順位をキープした。レース終盤、クラス 2 位を走行中の車両が接触からダメージを負いピットイン。これで順位をひとつ上げた 5 位となり、最後は小串がフィニッシュを担当。15 時過ぎに 671 周、3061.773km を走り切りスタートから順位を 4 つ上げた 5 位でゴールした。

今回のレースを完走することで多くのデータが収集でき、また車両の改善点、新たに履くことになったブリヂストンタイヤの性格も見えて来た。次の第 3 戦 SUGO ラウンドはスキップし、チームの地元オートポリスで 7 月 29～30 日に開催される第 4 戦に全力を挙げる。

塚田利郎「スーブラは EVO、タイヤはブリヂストンになって初めてのレースで、最後まで戦っているという感覚でレースができたというのは、私たちが望んでいるとおりにになっているのかなと思います。次はオートポリスなので、表彰台を狙うようなレースをしたいです」

蘇武喜和「フリー走行から決勝に向けての走りを重ねていたのも、上位勢とそう変わらないタイムで走れましたし、一歩ずつ進歩したレースになりました。クルマも乗りやすくなって来たしバランスも取れるようになりました。次のオートポリスでは上位を狙いたいです」

金丸ユウ「今回呼んでいただいて短い期間だったのですが、良い雰囲気の中に入れてもらいました。もっとクルマを速くなるように作り込みたかったのですが、セット等苦しくてしまい悔しい気持ちがいっぱいです。大きなトラブルなく走り切れたのはチームのおかげです」

大島和也「初めてのチームで緊張していましたが、温かい雰囲気でも真剣ながらも楽しくレースをすることができました。GT4 のクルマはほぼ初めてだったので、ちょっと戸惑いもあったのですが、勉強させてもらいました。今後もこのチームで経験を積みめればと思います」

小串康博「無事にチェッカーを受けるという責任重大な仕事だったので、とても緊張しました。こういうプライベートチームとしてチームワークで最後まで生き残ったのはチームみんなのおかげです。"4 人のカズキ"(20 号車 Z)に勝てたというのは帰ってからも自慢します」

芳賀邦行「体調が優れず 1 回のステントしか乗ることができませんでした。慣れていないこともあり思っていたとおりにクルマを動かせず難しかったですね。ちょっといろんな意味で準備期間が短かったかなと。もてぎでも乗る予定なので準備を怠りなくやっておきたいです」